

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	江川 あや
視察地	石川県金沢市
視察年月日	2024年7月30日(火)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
児童相談所について ●目的： 児童相談所の設置に関して調査を行い、本市の児童相談所の設置の可否に関して考えることを目的とする。 ●調査内容： 1. 設置にかかる経緯と市民意見の反映方法について 反対意見等に関してはなく、市民の憩いの場、文化施設の近くに子育て支援施設を置くという意図の中で整備をされていた。当時の市長が強く押し進めたが、当局部門に関しては反対の立場であった。要保護児童対策協議会等の充実をしている。支援型、介入型と様々な状況の中で対策を進めている。 福祉保健が所管しているのが「子育て世代包括支援センター」となる。「子ども家庭センター」として、位置づけられており、一時保護所等もある。 現在の事業の1つとしては、不適切な画像発信等、少年補導の考え方等からネットパトロールやヤングケアラーの支援等、厳しい環境にある子どもを見守る社会的養護の施設となっている。 2. 子育て施策の中での位置づけと変遷について 行政区としての市の直轄の行政機関と仕事をする事が、行いやすい。ヤングケアラー等に関しても線引きで止まることなく、介入することができる。課題点が明確化し、生活基盤の立て直しが容易にできるよう、市の施策の中で連携を取ることができる。子育て支援施策としても、公民館の行事等で集めたりと、介入が必要なケースに関しても多様な関わりが出来ることが利点となる。 3. 現在の課題について 固有の課題というよりは、一般的な課題としての専門職等の確保や虐待等の変遷など、人に関わる部分が多い。 4. 一時保護時の一般的に言われる課題についての対策 兄弟の預かり等に関しては一部屋でとしている。12名7部屋。個室にはしていない。 通学等に関しては主訴により、保護者との関係性等に応じて検討し、対応をおこなっている。 5. 子ども大綱等の反映と今後の方向性 「子育て夢プラン」として、5年に1度の改訂を令和7年4月公布予定。相談機関の仕事として、幅広い相談に対して繋ぎが出来るのが強味となっているので、その点をしっかりと維持していきたい。	

●所見

児童相談所の設置が市長公約であった時に、旭川市では検討会議が行われていたが、その後、市長が変わったことによって児童相談所に向けた機能が、いじめ対策へと変更された。全国的な潮流として児童相談所の設置が行われる中で、旭川市の子育て施策の今後の方向性をどのようにしていくべきなのかを改めて考える機会とするために、金沢市の子育て政策について調査を行った。前日には児童養護施設に関しての話を聞き、石川県の児童相談所と金沢市の児童相談所との連携等が中々進んでいないという事も伺ったが、基礎自治体としてできる限りのことをしている印象をもった。児童支援に関して肝となるアセスメントの課題は全国的な課題だが、専門性を持って関わる人材の不足に関してはどの地域も同じなのだと感じた。

児童相談所を旭川市にどのように実現していくかという点で、いくつかの視点を持つ必要があると感じている。

1. ヤングケアラー等もそうであるが、新しい対策すべきカテゴリーが発見される都度、様々な見直しが行われてきており、その点に関しての対策が強化される過程で、これまでの基礎的部分であった対策が後回しとなることがあるということ。
2. 「子どもの意思」の汲み取り方に関しては、議論をされることが少なく、子どもの最良の策を考える過程で、「子どものワガママ」を「意思」としてしまう例をどのように防ぐかということ。
3. 細かな制度設計の積み上げの上にあるのが児童相談所であるということ。

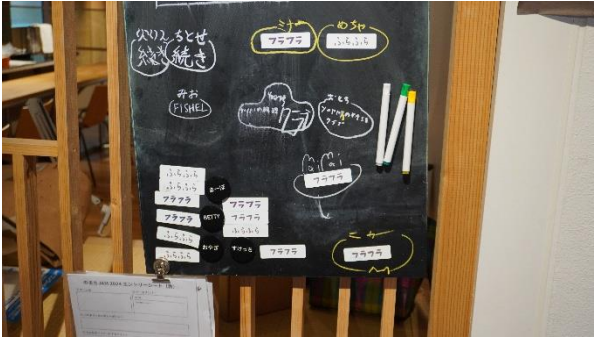
この3つの視点で、これまでのロードマップを考える時、まずは子育て支援の充実等に関して議論をしていく必要があると感じた。

金沢市の児童福祉の関係者の児童に関する想い等は、旭川市の行政職にあるだろうか？と、様々な子育て支援制度に関わる、子育て世代からの訴えを聞く時に思う。

まずは旭川市全体の子育て支援制度の俯瞰からはじめ、誰ひとり取り残すことのない、個別最適化される支援の構築をしていくことが出来るよう、今後も学びを深めていきたいと感じた。

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	江川 あや
視察地	石川県金沢市
視察年月日	2024年7月30日(火)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
VIVISTOP 金沢について ●目的： 放課後の児童生徒の居場所の1つとして、体験活動を通じた活動についての知見を得るため。 ●調査内容： 野町小学校(H27年)が統合して、H26に閉校したため、金沢未来のまち想像館となった。 世界の交流拠点都市 H30 新産業創造ビジョン R3、8月に開館。 産学官の共同体活動をおこなっている。 開館時間はAM9:00~PM9:00。 2階：スタートアップ、新ビジネス創出事業 5G 環境 3階：子どもの創作・ワークスタジオ 4階：食文化に関して、食品ロスの削減。 1階：カフェ 職員体制は 正規2名、その他3名  自由に使える材料が、いたる所に用意されており、創造性を高める工夫がなされている。 その日の気分等をオノマトペで表す。 それぞれのフォントや漢字、ひらがな等のバージョンが多く、何気ない情報が子ども達に与える影響を感じた。   一年の成果等をプレゼンし、起業を目指すこともできる環境が用意されている。	

●所見

旭川市で VIVISTOP をと要望を受けたことがあり、実際に行っている金沢市での実例を拝見した。金沢市の強みである「ものづくり」の環境を生かし、子ども達の視野や興味を広げる場としてあるとのこと。月謝等を支払って通うという点で、教育投資の 1 つとしてあるということが理解できた。また、VIVISTOP 自体は事業が終了となっているため、今後、どのように継続を行っていく予定なのかが気になったが、元々の目的等がはっきりとしており、他の階の大人向けの起業支援との連動であったり、多様な学びの場としての在り方等からも VIVISTOP に拘らずにもものづくりの観点から、今後も継続していくだろうと予想ができた。

旭川市においても「ものづくり」という点では共通しており、地方という点でも共通している。伝統という点では歴史的な背景から金沢市ほどの背景はないが事業化に関しては検討する余地があると考ええる。特に、地方都市で一人一人の所得が低い旭川市において、デザインの観点からの収入増につなげる意味でも「起業」を支援することは必要ではないだろうか。

視野や興味を広げ、アイデアを形にする経験を通して、社会実装していく場を設けることは未来への投資とも考えられる。子どもの興味関心を現実としている様を見せてもらい、フィッシュレザーなど、今後、どのように市場に出てくるのかが楽しみな商品もあった。丁寧な議論を行いつつ、政策として予算をかけずにできる方法を調査を重ねながら模索していきたいと考える。

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	江川 あや
視察地	富山県富山市
視察年月日	2024 年 7 月 31 日 (水)
視察内容 (目的・具体的内容・成果等)	
コンパクトなまちづくり、富山地方鉄道の下分離式管理	
●目的： 「コンパクトシティ」や「公共交通を軸としたまちづくり」で名高い富山市の政策を実際に確認し、20 年近く経過した先進地の現在を知ることによって旭川市の公共交通の在り方等に政策反映させることを目的とする。 ●調査依頼事項： ◆コンパクトシティ構想における変遷について - コンパクトシティ構想において公共交通を軸として市民の移動を中心にすえた理由について - 当時の輸送密度と現在の輸送密度においての変化等と、町づくりへの影響について - コンパクトなまちづくりを行っていく上で、居住年齢の人口推移についてどのように対応をおこなっているのか。また、課題点等はあるのか。 - 富山市における公共交通への予算措置の変化と民間との連携の課題点について - 富山県で行っているデザイン会議との連携等 関係性について - 公共交通会議の持ち方について ◆富山鉄道の上下分離式管理について - 上下分離式管理の概要、利点と課題認識について - その検討経過について	
※直接の回答と事業概要等の説明は「別紙資料」にて。	
●所見 これまで多くの旭川市議会の議員が公共交通の調査で富山市を訪れ、予算措置やその政策の概要については視察報告書等で知ることができたが、実際に現場での気付きを得ることと、公共交通従事者の話を伺うために視察の受け入れをお願いした。 コンパクトシティを進める中での政策展開の中で、複数社あった公共交通事業者が実質的には 1 社となり、市内の鉄軌道、バス、都市間を結ぶ鉄道等を一貫して補助することで維持していることから、行政としては支援が行いやすい反面、事業者に依存せざるを得ない状況も見てとれた。統合の際には、行政からの出向も行っていったよう。旭川市においては、鉄軌道は手放しているが残っていたら観光等で苦勞しなかつたらう点と、維持の面で行政からの支援方法は複雑であつたらうことを感じた。 上下分離方式に関しては、特にレールの引き方、景観デザインに関しての工夫等に関して詳	

しく伺った。新幹線、JR の駅、地方鉄道の駅と、複数の駅が一つとなる中で、その中を貫くようにして鉄軌道が南北に走っており、まさに交通の結節点という点が解りやすかった。朝と夕のラッシュ時に関しては、集中して混雑しているように見えて、乗り換えや行く先に関しては様々な方法で乗り換えられており、市民の動きが多様で大変興味深く観察させていただいた。その点に関しても伺ったが、結節点から公共交通網が広がっている一方で、ある程度の集約がなされるようなまちづくりが為され、立地適正化計画や公共交通計画において、きちんと実践ができる理論の上で計画が立てられていることを実感することができた。

旭川市においても今後の計画の見直し等に向けて議論を重ね、緩やかな減少となるように、どの部分を維持し、どの部分を集約していくのか？をしっかりと考えていかなければならないと感じた。改めてそれぞれの計画について詳細に研究をしていく必要性を再認識した。

富山市はデザイン行政でも知られるが、公共交通においても意識しなければ解らない部分にデザイン思考が取り入れられていることを感じた。例えば、駅前の空間デザインに関しては、軌道を横断する部分等で地面の素材を変えることによる足の感触による分離や、植栽による歩行空間の分離等で伺うこともでき、その点に関しても担当課の職員さんと話が盛り上がった。丁寧な話し合いの上で実現した部分とのことで、デザインに限らず様々な部分で丁寧な議論の上で行われている事業であることが理解できた。

旭川市においてもそのような丁寧な議論を行いながら、一方で迅速に公共交通の維持に向けて進めていきたいと考える。

(様式 2)

議員行政視察報告書

議員名	江川 あや
視察地	東京都杉並区
視察年月日	2024 年 8 月 1 日 (木)
視察内容 (目的・具体的内容・成果等)	気候区民会議について ●目的： 日本の気候市民会議は札幌市から始まっているが、イベントとして開催となっている例も見受けられ中で、今年 3 月から始まった杉並区の取組に関して知見を得、市民参加型の政策提言はどのような形になるのか、またミュニシパリズムの現在地を知ることが目的とする。 ●調査内容： 対話を重視しているため、機運醸成会議にて気候区民会議を考える可能性が出され、実施となった。杉並区の特徴として、周辺区なので住宅地が広がっており、南北交通が難しく、バス便が発達している。森林環境譲与税は森林環境教育で、間伐を知らせる等の取り組みが行われている。 気候市民会議は一回 3 時間、会議が前提で無作為抽出ということ。5000 人送って 77 人参加。意見提案を具現化するためには毎年はできないという実感がある。 アクションを起こしたいという前向きな議論が多くで為され、若い世代が熱心だった。サイレントマジョリティーの反応をどう引き出すかが、課題だと思っている。 色んな世代間が良い物を作っていこうという意見。 否定することなく尊重し、1 人の意見が大きくならないようにしていくことも課題。
	
●所見	目的をもって会議を行っていく大切さと大変さを感じた。気候市民会議は北海道において札幌市が民間団体として行っており、気候変動、気候危機に対してどのように取り組んでいけば機運醸成が為されるのか？という点で、有効な手段だと考えている。様々な場所で気候市民会議は行われ始めているが、森林が多く気候変動の影響を受けているのに実感がない旭川市民がどこまで取り組めるだろうかという点で、難しさを感じた。 杉並区の区民の状況や生活環境、所得等を考えると、杉並区等、都市圏では可能なことなのかもしれないと思う。目の前のことで精一杯で余裕がない状況では、休日の 3 時間を会議に充てるという事自体が難しい。その意味で、旭川市で気候市民会議という形での導入はかなり難しいのではないかと感じた。 ただ、ミュニシパリズムについては取り入れていける部分があると感じる。例えば、現在、

市民が政策等に関して話し合いを行い、提案したことが事業化される例が旭川市でもあるが、そういったことを丁寧に「市民の提案」として、市民が主導できるところに行っていくという仕組みに変えることはできるのではないだろうか、調査を通して感じた。

気候変動対策の 1 つとしては、現在、旭川市民がどのような部分で影響を受けているのかということを知らせることも大きいのではないかと考える。気候市民会議においても、最初の段階ではその辺りに関する勉強会も行われたとのこと。複数年にわたる継続的な取り組みが必要な分野ではあるが、意見や提案を具現化するためには毎年は難しいという課題も伺った。丁寧な対話や議論を行い、具体化していくことの重要性を改めて感じた。